

60歳を過ぎたいまもなお、この言葉が生きている

学問は感動の三角形となる
底辺を形づくるもの。
いっけんむだに思えても、
教養を広げることで
底辺は長く、より強くなる。
それによってつくられる
三角形も強く、高いものになる

(父から)

「私が中学生のときのことです。

当時、高校卒業だけでよいから大学には進学したくないと思っていました。そこで、家族に高校は商業科に行きたいと話したとき、父に言われた言葉です。幅広い知識と教養を得ることで、これからの人生のなかで多くの感動を得て、幅広い人間関係を築くことができると。そのため手段のひとつとして大学も検討し、それを前提に高校を選んでほしい。この言葉には、そういった父の思いが込められていたんだと思います」

結局、お父さまの言葉を受けて地元の進学校の普通科に進学し、大学へと進んだ宗祥子さん。就職



そう・しょうこ 1988年、東京・中野に助産院を開業。現在も助産師として働くが、産前産後の女性を支援する「ドゥーラ協会」の代表も務める。

して子どもができたあと、助産師になるため36歳でまた大学に再入学しました。60歳を過ぎた現在も助産師として現役で仕事を続けるかたわら、英語やフランス語を学びつつけているという、そのバイタリテイに驚かされます。

「学問を修めたり本を読んだり、海外の方々と交流したりすることは、仕事にも通じています。その根底には父のこの言葉がいまも生きつづけています。父にも、この言葉にもとても感謝しています」